

位置と環境

鹿児島空港の北西約2キロの地点である。十三塚原の北西端、標高280メートルの台地縁辺部に位置し、霧島火山群の西麓にあたっている。遺跡は崎森川の谷壁から台地中央にむかってひろがっている。崎森川の谷水に依存して立地し、時代がさかのぼるほど谷に近く、時代がくだるにしたがって台地の内部へ生活領域をひろげている。

調査の経緯

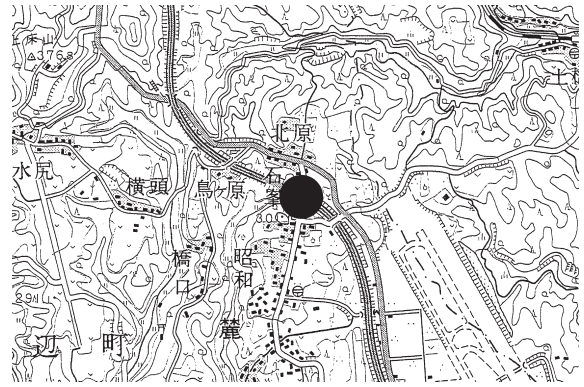
昭和41年（1966）と昭和54年に河口貞徳が調査した。昭和50年から53年にかけては九州縦貫自動車道建設に伴い、県教育委員会が調査し、発掘面積は21,000㎡におよんだ。

遺構と遺物

旧石器時代の石器は細石刃文化期を主体とするが、周辺からナイフ形石器も採集されており、隣接地にはナイフ形石器を主とする文化層も想定できる。

調査区内では7か所の集中か所が確認できた。黒曜石のみのブロック、散在しているブロック、細石刃の多いブロック・ないブロックなどがある。細石刃核は船野・百花台形態に近い。また、これらとともに石鏃・打製石斧・土器片も出土している。

地層では薩摩火山灰層、アカホヤ火山灰層など縄文時代の鍵層が明瞭で、数多くの型式の土器が良好な層序で出土し、従来明らかでなかった縄文時代草

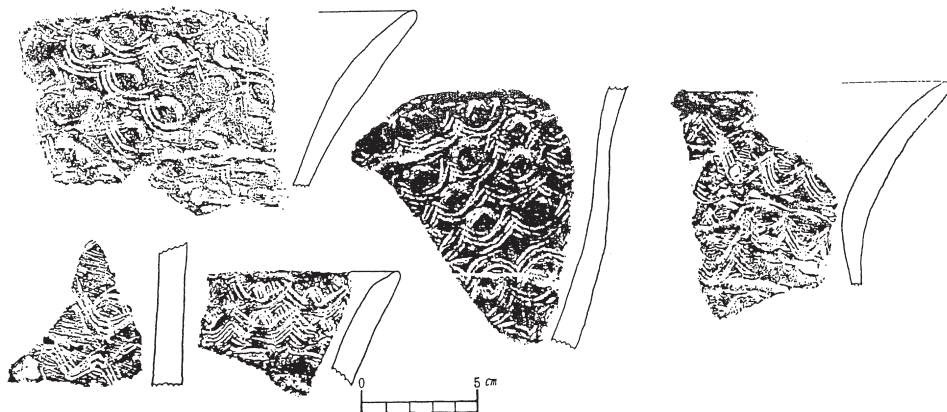


第1図 石峰遺跡の位置

創期・早期・前期の土器編年に、重要な基準資料をあたえた。九州では、従来、縄文をほどこした土器については資料が断片的でよく知られていなかったが、石峰遺跡では地元の貝殻を施文具とする土器群とともに、薩摩火山灰層の下から細石器に共伴して草創期の押圧縄文土器（半置半転）、薩摩火山灰層直上の黒色粘質土層（IVb層）から早期の撚糸文土器、凸帯撚糸文土器が初めて系統的に発見された。

一方、同じ黒色粘質土層の最下部から新型式の連点鋸歯文土器が発見され、続いて南九州に広く分布する早期の石坂式、吉田式土器が出土し、さらに少し間隔をおいて、黒色粘質土層の最上部から円筒形条痕文土器が出土して、鋸歯文土器に端を発する、貝殻施文の円筒形平底土器の系列が明らかになったのである。

石峰遺跡では、縄文と貝殻文との二つの土器系列の並行関係がつづいたあと、早期末に押型文土器が伝播してこれにくわり、三系統の土器が並立する



第2図 変形撚糸文土器

状態になる。しかし、押型文と縄文とが結合して石峰式土器が生まれ、円筒形条痕文土器を最後として貝殻施文土器が消滅して、この三者の並立関係は終末をむかえる。この時期が一つの文化の終末をしめているので、早期末としたのである。

黒色粘質土層とアカホヤ火山灰層にはさまれた黝青灰色硬質土層（IVa 層）からは、前期の手向山式を下層に平椀式、塞ノ神 Aa 式土器の層序で出土している。これらは石峰式土器に後続するもので、手向山式土器以後を前期としたのである。手向山式土器は石峰式土器のあとを受けて押型文、縄文、そのほかの要素を結合したものであり、つづく平椀式土器も縄文と沈線文の結合文様であり、塞ノ神式土器以降も同様である。

石峰遺跡は、旧石器時代終末期にはじまり、縄文時代早期・前期には最盛期をむかえ、土器型式も多く、それぞれの時期の遺物も相当な量に達している。また、各期にともなう集石遺構も多い。しかし、長期にわたる相当数の人びとの生活の跡を残しながら、集落遺構としては前期後葉の竪穴住居跡一軒を残すだけである。おそらくキャンプ生活であったとおもわれる。

霧島火山西麓には縄文時代早期・前期の大遺跡が多く、調査もおこなわれているが、竪穴住居跡はほとんど発見されていない。この地域では移動に適したキャンプ生活が普通の状態であったとおもわれる。

前期以降には轟式・曾畑式・深浦式・春日式・阿高式・岩崎上層式・草野式など前・中・後期の土器が出土している。

縄文時代の石器は早期前葉・後葉、前期以降のものに分かれる。早期前葉のものには石鏃・石匙・削器・磨製石斧・叩石・礫器がある。早期前葉では石鏃・石匙・スクレイパー・磨製石斧・局部磨製石斧・叩き石が出土している。前葉の石匙は横形のみなのに対し、この時期には縦形も出てくる。

前期以降には石鏃・石匙・削器・磨製石斧・礫器・磨石・叩石がある。

弥生時代の土器には中期前葉の北麓式土器、後期の免田式土器がある。古墳時代の土器はく字状に曲がり脚台のつく甕形土器、丸底の壺形土器、外反

する高坏形土器など前期のものが出土している。この頃と思われる広根式の圭頭形鉄鏃も出土している。古代の土師器（皿・坏・蓋・甕・鉢・こしき・壺）、須恵器（坏蓋・皿・坏身・椀・瓶・甕）、黒色土器（坏・椀）が出土している。8世紀頃のものと思われる。

16世紀頃のものと思われる青磁・白磁・染付・陶器・瓦器・土師質土器も出土している。

特徴

旧石器時代から近世まで連綿と続く複合遺跡である。

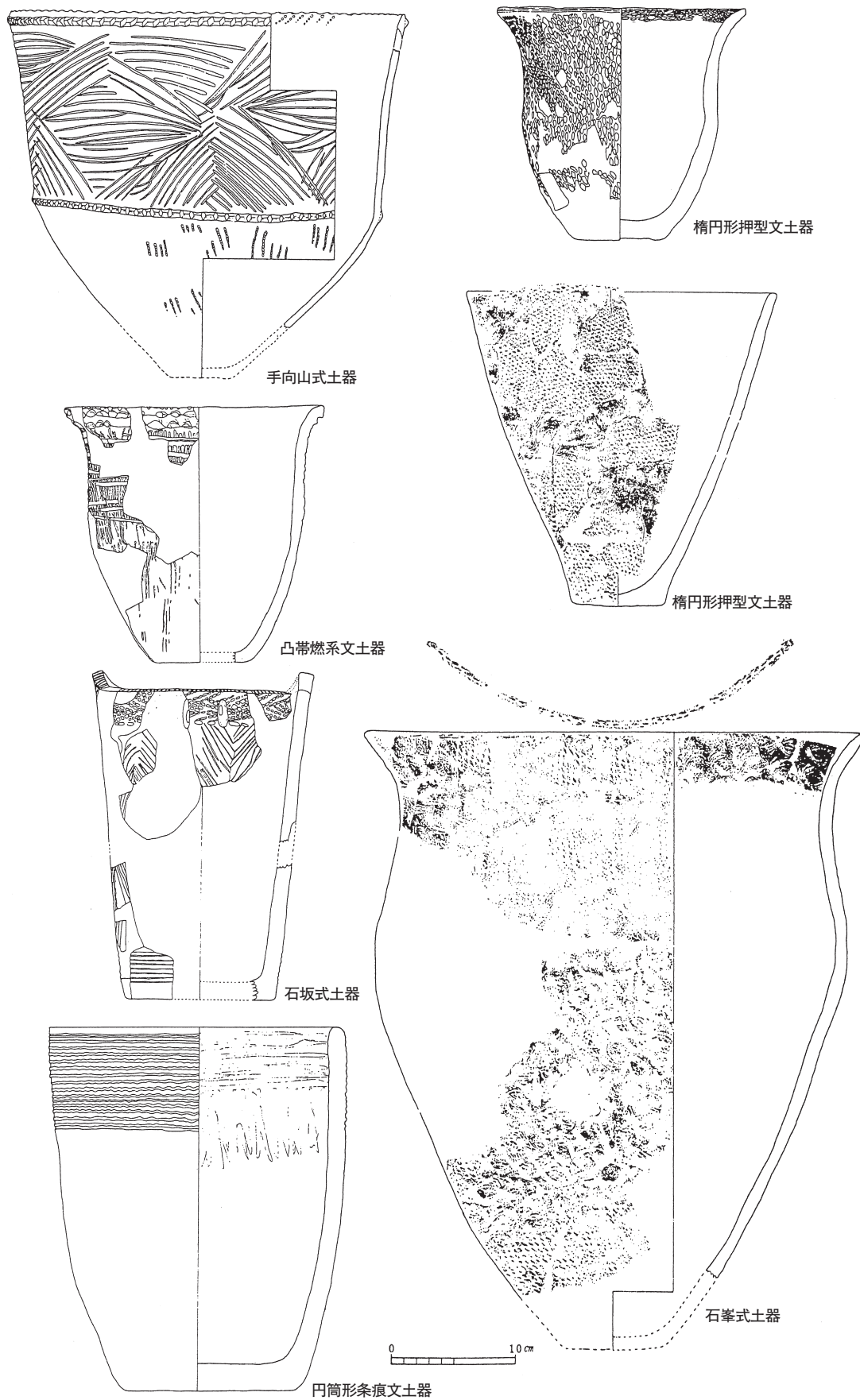
資料の所在

出土資料は、県立埋蔵文化財センターに保管され、一部は上野原縄文の森展示館で展示されている。

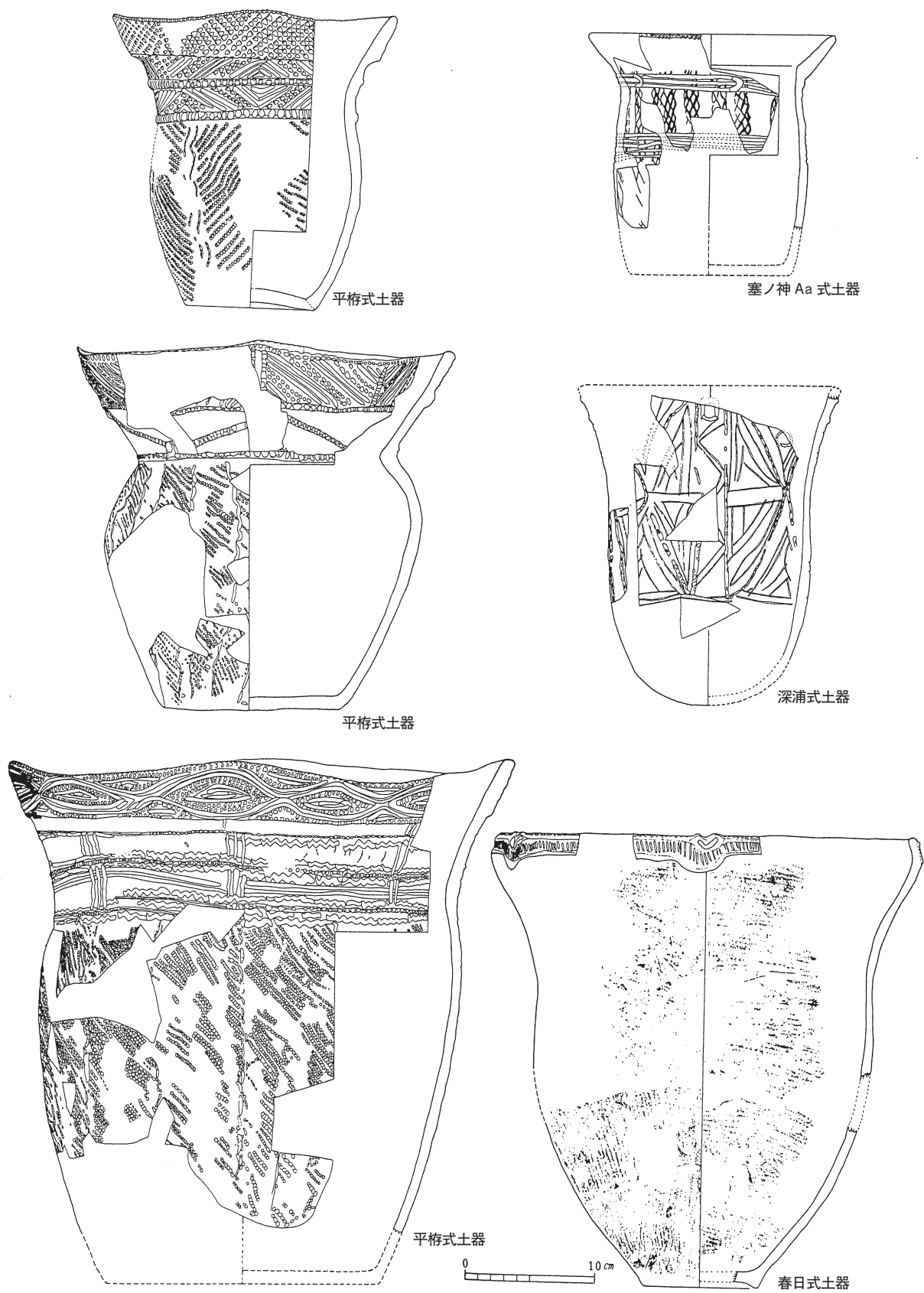
参考文献

鹿児島県教育委員会1980「石峰遺跡」『鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書』12

（河口貞徳）



第3図 縄文時代早期の土器



第4図 縄文時代早～中期の土器